

## 「<sup>マッチ</sup>燐寸製造と神戸の近代」

2025年11月26日（水）～ 2026年2月1日（月）

明治9年（1876）に安全マッチが初めて国内で製造されてから、大阪・神戸を中心にマッチ工場が多数開業し、瞬く間に綿糸などに次ぐ一大輸出商品へと成長しました。特に神戸では、明治13年の瀧川辨三（たきがわべんぞう）による清燧社（せいすいしゃ）の開業を嚆矢に多くの工場が設置され、明治30年代後半には、兵庫県全体で国内の6割を超える生産シェアを誇りました。

一方、明治30年代の貧困層の生活や工場の労働環境を克明に描いたルポルタージュ・横山源之助『日本之下層社会』において、「他の工場に比して細民（さいみん、貧しい人々の意）の儿女多く」「燐寸工場にては児童の労働を見るに最も恰好（かっこう）の材料を得るものあるが如し」と記されたように、その生産は年少者や女性の労働に支えられたものでもありました。

そこで本展示では、明治期の神戸のマッチ製造を取り上げ、当時の製造の現場に迫ります。



マッチ製造会社ポスター  
当館蔵

### [出品資料]

指定	資料名（所蔵番号または所蔵）	作者	材質技法	員数	時代
	帝国実業名鑑（新 1992-223）		紙	1冊	明治28年（1895）
	マッチ製造会社ポスター（新 1987-176）		紙	1枚	明治40年（1907）～昭和2年（1927）
	実業須知（新 1983-271）	神戸商工会議所	紙	1冊	明治44年（1911）
	怡和洋行マッチラベルシート（新 1988-116）		紙	1枚	明治時代～昭和時代
	月次報告（新 1979-022）	大阪兵庫燐寸同業組合	紙	3冊	明治35年（1902）
	マッチラベル貼付帳（新 1987-173）		紙	1冊	明治時代後期～昭和時代
	東洋燐寸株式会社写真帖（新 1987-260）	東洋燐寸株式会社	紙	1冊	昭和時代
	KOBE-THE PREMIER PORT OF JAPAN（新 1989-164）	ドーグラス・エム・ヤング、 和田朝一郎	紙	1冊	昭和8年（1933）